

# 令和5年度 病害虫発生予察情報

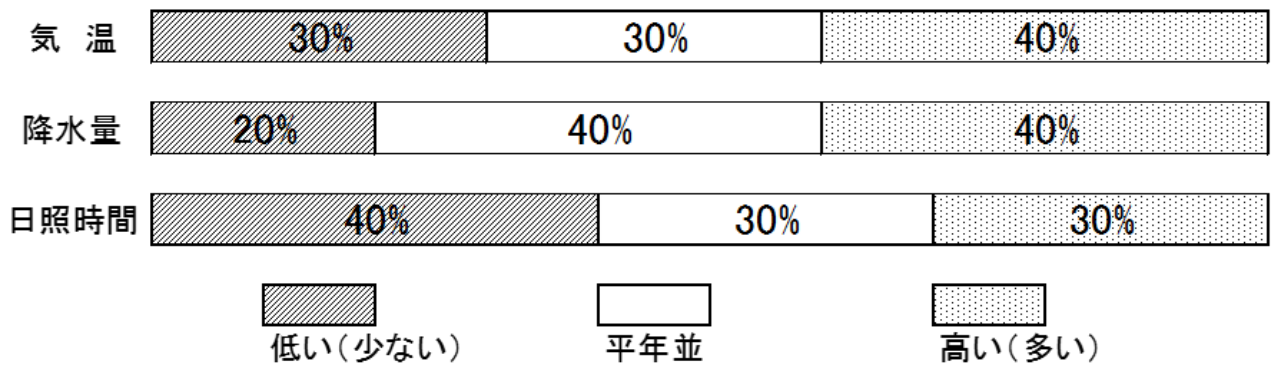
## 発生予報第4号（7月）

令和5年7月3日  
島根県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	平年並～やや多い		
		紋枯病	平年並		
		縞葉枯病	平年並		
		黄化萎縮病	平年並		
		ヒメトビウンカ	平年並		
		ニカメイチュウ	やや多い		
		ツマグロヨコバイ	少ない		
		セジロウンカ	少ない		
		トビイロウンカ	平年並		
		コブノメイガ	平年並		
		果樹	ナシ	斑点米カメムシ類	平年並～やや多い
				黒斑病	やや少ない～平年並
黒星病	やや多い				
シンクイムシ類	やや多い				
ハマキムシ類	やや多い				
ハダニ類	平年並				
アブラムシ類	平年並				
カキ	カキ			円星落葉病	平年並～やや多い
				カキミガ	平年並
果樹全般				カメムシ類	平年並

中国地方1か月予報(7月1日～7月30日・広島地方气象台6月29日発表)  
 <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月27日に本田での初発生を認めた。
- ② 6月下旬の巡回調査(70ほ場)では、発生ほ場率が1.4%(平年0.9%)、発病株率が0.1%(平年0.3%)と発生量は平年並みである。
- ③ 6月第6半旬を中心に感染好適日が出現している。
- ④ 常習発生地では育苗箱施薬の実施率が高い。
- ⑤ 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査(70ほ場)では発生を認めていない(平年の発生ほ場率0.6%、発病株率0.0%)。
- ② 常習発生地の一部では育苗箱施薬が行われている。
- ③ 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 縞葉枯病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月28日に本田での初発生を認めた。
- ② 媒介虫のヒメトビウンカの発生量は平年並みと予想される。
- ③ 4月中旬の越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%(平年0.1%)と低い。

(4) 黄化萎縮病

予報内容

発生地方 常習発生地  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 近年、本病の発生は少ない。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は20.5%(平年35.5%)、捕獲数は1.2頭/50株(平年3.2頭)で発生量は平年並みである。
- ② 6月第5半旬までに予察灯(出雲市)で0頭(平年0.2頭)ネットトラップ(出雲市)において3頭捕獲された。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) ニカメイチュウ(第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、被害株率は2%（平年0.12%）で発生量は平年に比べてやや多い。
- ② 6月第5半旬までの予察灯における誘殺数は平年並み、フェロモントラップにおける誘殺数は平年に比べてやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に特に抑制する要因とはならない。

(7) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は9.1%（平年21.6%）、捕獲数は0.1頭/50株（平年1.6頭）で発生量は平年に比べて少ない。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(8) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 粘着誘殺灯（出雲市）への初飛来は認められない。6月第5半旬までに、予察灯及びネットトラップでの誘殺は認められない。
- ② 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は4.5%（平年35.9%）、捕獲数は0.0頭/50株（平年2.4頭）で発生量は平年に比べて少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(9) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月第5半旬までに予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）及びネットトラップ（出雲市）での誘殺は認められない。
- ② 6月下旬の巡回調査では、ほ場での発生は認められない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月第4半旬までに予察灯（出雲市）、粘着誘殺灯（出雲市）及びネットトラップ（出雲市）での誘殺は認められない。
- ② 6月下旬の巡回調査では、ほ場での発生は認められない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(11) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月第5半旬までに予察灯（出雲市）で斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ及びアカヒゲホソミドリカスミカメ）の合計誘殺数が39頭（平年50.0頭）と平年並みである。
- ② 6月下旬のほ場周辺雑草地でのすくい取り調査では斑点米カメムシ類の発生ほ場率は78.9%（平年66.9%）、捕獲頭数は17.1頭/20回振り（平年11.1頭）と発生量は平年に比べてやや多い。捕獲頭数の多い、多発生ほ場も確認された。主要種はアカスジカスミカメである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯

発生量 やや少ない～平常並

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率 4.6% (平常 7.3%) と、発生量は平常に比べてやや少ない。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率 1.7% (平常 0.9%) と、発生量は平常に比べてやや多い。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生を抑制する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

予報の根拠

① フェロモントラップ (安来市、出雲市) でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺時期は平常に比べてやや早く、6月第6半旬までの誘殺数は平常に比べてやや多い。

② 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

予報の根拠

① 県予察ほ場 (出雲市) のフェロモントラップにおけるハマキムシ類雄成虫の誘殺時期は平常に比べてやや早く、誘殺数は平常に比べてやや多い。

② 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

(5) ハダニ類

予報内容

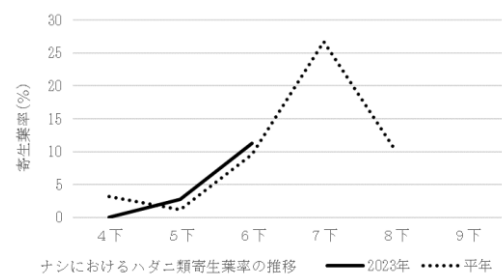
発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 平常並

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、寄生葉率 11.3% (平常 9.6%)、寄生虫数 17.2 頭/50 葉 (平常 19.6 頭) と平常並みである (右図参照)。

② 向こう1か月の気象は、本種の発生を助長する要因とはならない。



(6) アブラムシ類

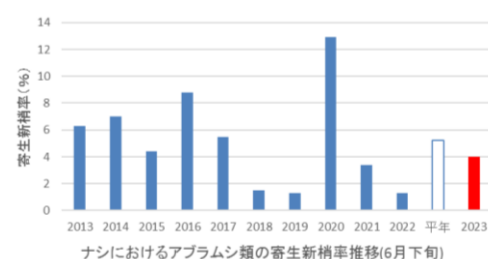
予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平常並

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、寄生新梢率 4% (平常 5.2%)、寄生度 3.3 (平常 2.0) と平常並みである (右図参照)。



- ②黄色水盤への有翅虫飛来数は平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

## 2) カキ

### (1) 円星落葉病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量(感染量) 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①前年の発生は平年並みで、伝染源量は平年並みと考えられる。
- ②向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

### (2) カキミガ(第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①前年の第2世代幼虫による被害は平年並みであり、越冬量は平年並みと考えられる。
- ②向こう1か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

## 3) 果樹全般

### (1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域(特にナシ無袋、カキ栽培地帯)  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①6月第6半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ3種の合計誘殺数は153頭(平年値254.4頭)と平年並みである。
- ②向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

### 【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページには、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

**島根県病虫害防除所**(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

[http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo\\_tech/byougaityuu/](http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/)

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp